

～ 暴言・暴行などの不適切行動への対応 ～

- ① 児童の暴言・言葉遣いへの対応方法
- ② やりたくない活動への参加を促す関わり
- ③ こだわり・切り替えの難しさの支援
- ④ 褒め方・モチベーションの引き出し方

叶 R7.12.10



Point① 不適切行動が起きる理由の理解

Point② 不適切行動が起きた際の対処

Point③ 不適切行動を防ぐ方策
(防ぐ① 防ぐ②)

Point①

不適切行動が起きる理由の理解



起きる行動には原理原則があります！

暴言・暴行の状況把握

- ・ 暴言や暴行の内容
- ・ 暴言や暴行が起きた状況
- ・ 暴言や暴行が起きた直接的理由
- ・ 暴言や暴行が起きた間接的理由
- ・ 暴言や暴行に至った要因

コミュニケーション セルフコントロール 集団行動

行動問題の4つの機能

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

- ◆ 要求・要望・目的がある

⇒ 行動（含不適切）

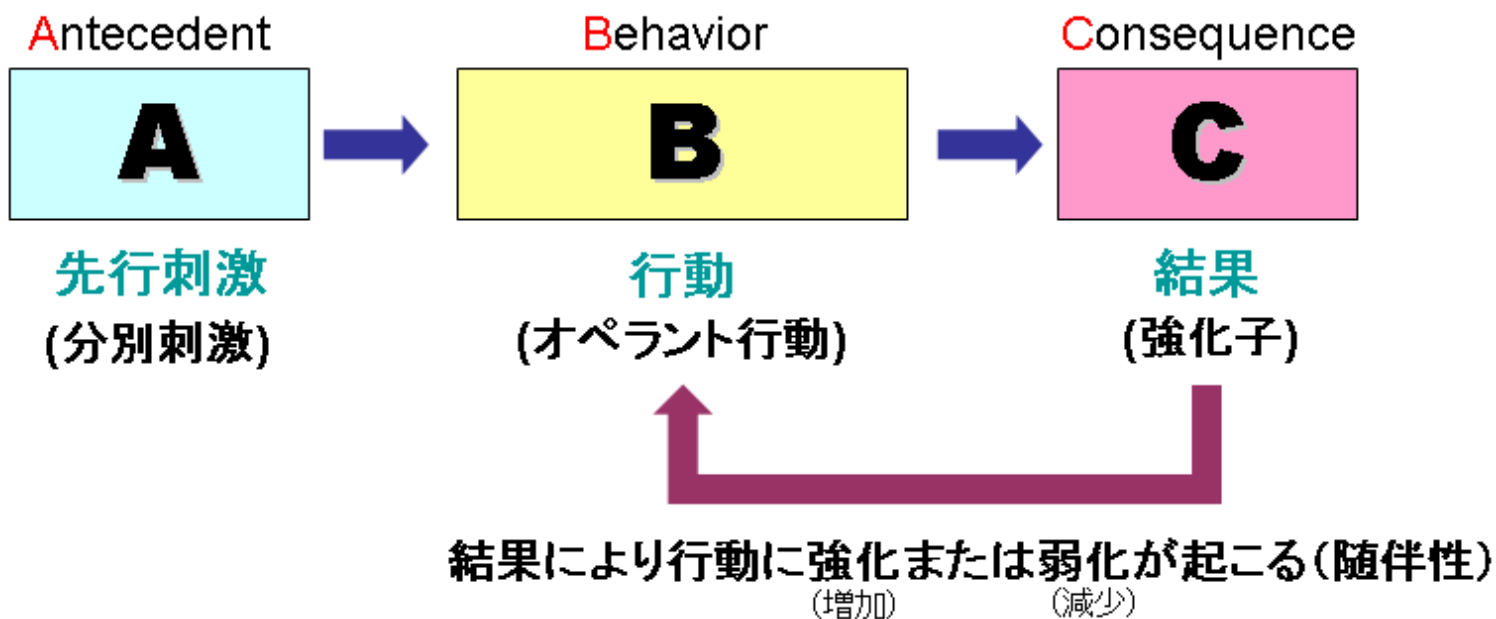
OK！
- ◆ 無意識レベル

⇒ 行動

対応困難！

行動問題がおきるからくり

三項随伴性(ABC分析)



A

B

C

店でほ
しいもの
をみつ
ける

「買って～」
と大声で泣き
叫ぶ

ほしいもの
が手に入る

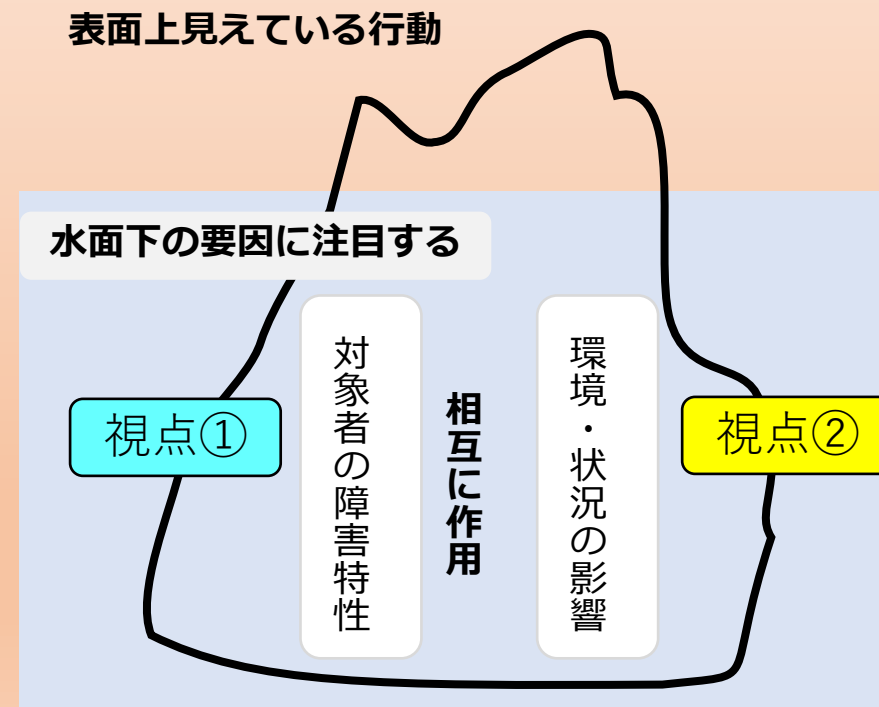
強化

行動問題を理解する2つの視点

背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップする。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意する。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考える。



【障がい特性】

【障害種別】

- ・ 身体障害（視覚障がい）
- ・ 身体障害（肢体不自由）
- ・ 身体障害（聴覚障がい）
- ・ 知的障害
- ・ 発達障害
自閉症スペクトラム（アスペルガー障害など）
注意欠如・多動性障害 学習障害など
- ・ 精神障害
- ・ 難病（脊髄小脳変性症） など

【成育歴】

【病歴】

【学力】

【検査結果】

【家庭環境】

【興味関心】

【得意不得意】

【エピソード】

行動問題を理解する2つの視点

視点②

冰山モデルを用いた 支援の考え方 (自閉症の子どもの例)

- おやつの時間になると、走って部屋の隅にかくれる
(直前の活動までは全く問題なく参加できる)
- 声かけするが、かたくなに動こうとせず激しく抵抗する
(他害のリスク有り)

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・ 先の見通しをもちにくい
- ・ 苦手な人意識が強い
- ・ 強いこだわりがある

環境要因：

- ・ 今日は何のおやつか知らされていない
- ・ 手洗い場に人が並んでいる
- ・ 食べる部屋がころころ変わっている

【その他】

- ・ おやつの内容
- ・ 容器
- ・ 食べる場所
- ・ 手洗い場
- ・ おやつ後の活動
- ・ 体調
- ・ 空腹度 など

Point②

暴言・暴行が起きた際の対処



人に頼る選択肢を選ばないようにします！

行動問題に対処するサイクル

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）

【理由・要因が
明白な場合】



③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

【理由・要因が
不明確な場合】

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める (理由・要因が明白)

- | | | |
|---|--------------|---|
| ア | <u>安全の確保</u> | ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう
安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など） |
| イ | <u>刺激の除去</u> | ・ いやになっている刺激を取り去る
（視覚 聴覚 触覚 におい など） |
| ウ | <u>刺激の制御</u> | ・ 現状以上の刺激を与えない
（クールダウンスペース クールダウン部屋） |
| エ | <u>受け入れ</u> | ・ まずは気持ちのすべてを受け止める |
| オ | <u>切り替え</u> | ・ 本人が興味ある話題や物を使って
気持ちを切り替える |
| カ | <u>見守る</u> | ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ |

② 落ち着いたらトラブル処理をする

(理由・要因が明白)

- ア 聞き取り
 - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
 - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
 - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
 - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
 - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
 - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
 - ・ 今後のふるまい方の約束をする
 - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

③ 約束に沿った対応をする

(理由・要因が明白)

才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を「ルール化」する。

Point ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

Point ② 決して『押し付けにならないように』

Point ③ 取り組みの評価は、随時、定期的に！

Point ④ 取り組みの成果には、必ず評価（＝賞賛・報酬）を！

Point③

行動問題を防ぐ方策（防ぐ① 防ぐ②）



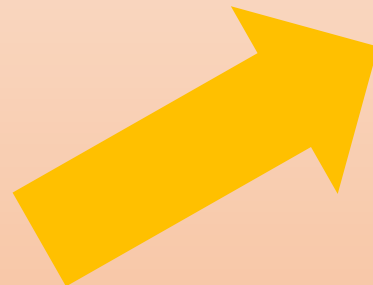
防ぐにはベースの力を身につけること

望ましい行動を身に付けさせる

ステップ①

① 行動問題の発生
を回避する支援力

状況と時期の
適切な見立て



ステップ②

② 望ましい行動を
身に付けさせる

望ましい行動を身に付けさせる

A (状況)

店でほしいものをみつける



B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ



C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

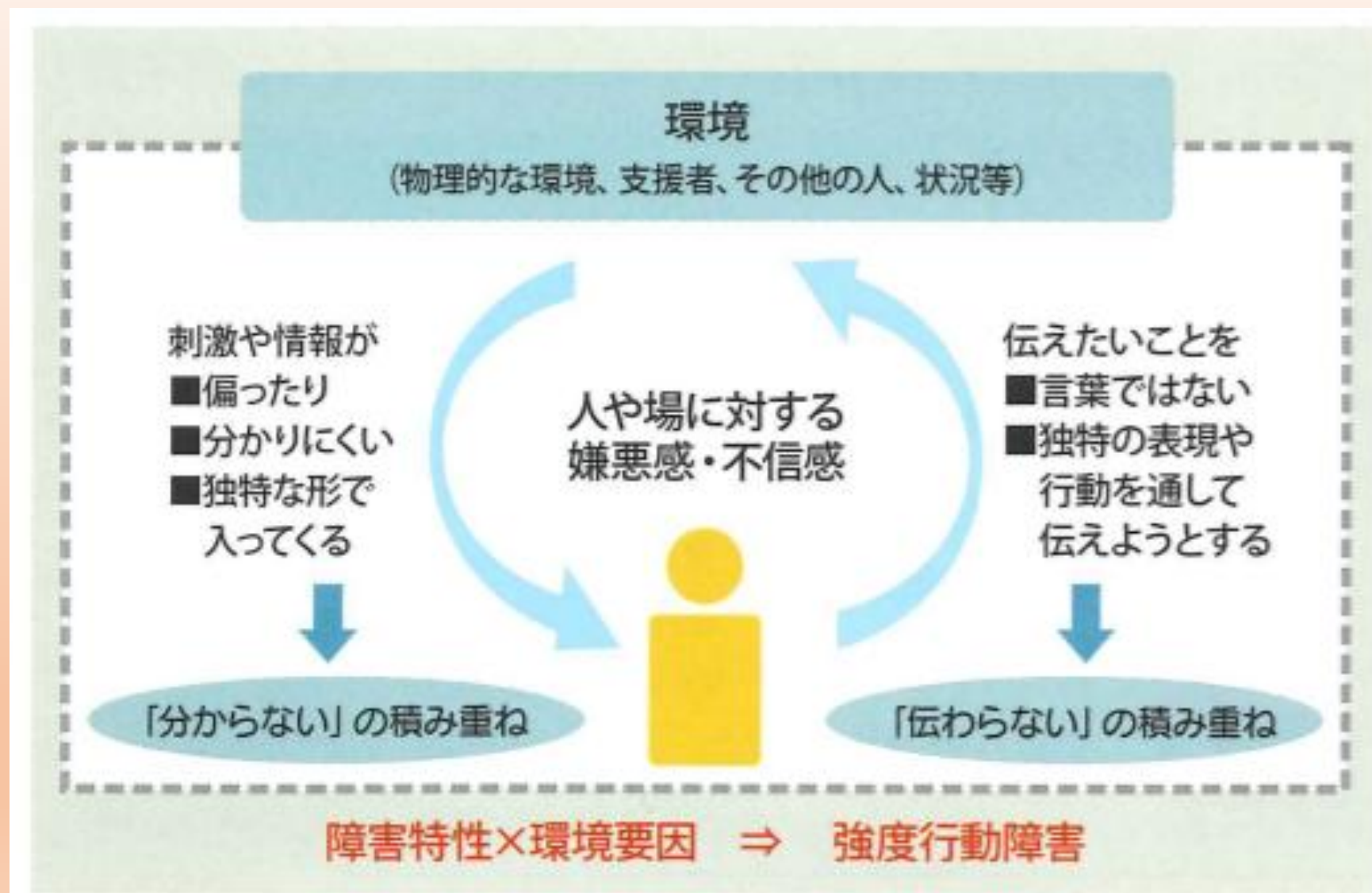
『B』の行動を変える

代わりの行動をつくる

レベルⅢ

『C』の結果を与えない

なぜ強度行動障害になるのか？



コミュニケーションの 分類 使い分けのヒント



口頭でのコミュニケーション

- 自信に満ちた覇気のある声で話す
- 相手の話に耳を傾ける
- 「えっと...」「あの...」といった間投詞を避ける
- 状況によっては専門用語を使わないようにする



言葉を使わないコミュニケーション

- 心の動きが身体にどう影響するかを認識する
- しぐさや表情などの癖を意識する
- 効果が高そうな方法を真似してみる



視覚的なコミュニケーション

- 視覚的要素を使う前に他の人の意見を求める
- 聞き手のことを配慮する
- 視覚的要素の使用はメリットが得られる場合に限定する
- 平易でわかりやすいデザインにする



文章によるコミュニケーション

- 簡潔さを追求する
- 文章のトーンに頼らないようにする
- 自分が書いた文章をじっくり確認する
- 効果がありそうな書き方やセンスのある書き方をメモしておく

子どもの
「特性」
「能力」
にあった手段
を準備する

行動問題を防ぐ①



直接的に行動問題を起こらなくする

② 行動問題が起こらない環境設定をする（防ぐ①）

「もの」 ・・・物を使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

② 行動問題が起こらない環境設定をする

宿題時の飛び出し！

	もの	ひと	こと
本人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち着いて学習できる環境として仕切りがある机を準備 ・ 小文字が載っているローマ字表を準備 ・ 模写サポート道具の準備（ホワイトボード、模写台など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人及びその場から離れる際の本人への声かけの工夫 ・ 本人を待たせる際の明確な指示の工夫（時間指定など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる範囲で「自立的」な行動を促す基本的姿勢をスタッフ間で共通確認する。
まわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人に1人以上のスタッフ配置 ・ 児童を迎える事前準備の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題が早く終わった子への適切な声かけの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所へ到着後の動線誘導の再確認 ・ 送迎車内での事前声かけの工夫 ・ 当日の支援に関わるミーティングの充実

ここまでは・・・対症療法



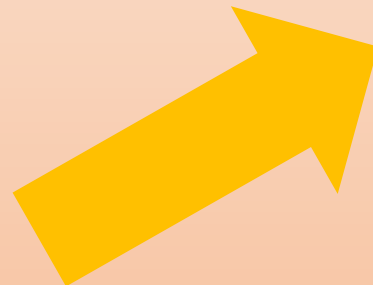
ここからは・・・長期療育

望ましい行動を身に付けさせる

ステップ ①

- ① 行動問題の発生
を回避する支援力

状況と時期の
適切な見立て



ステップ ②

- ② 望ましい行動を
身に付けさせる

行動問題を防ぐ②ー 1

代わりの行動をつくる



行動問題を起こさなくても済む別の行動を身につける

【状況】 高等部 1 年生のB君は、**「教室の掃除用具ロッカーに入り込む」**という不適切な行動が多い生徒でした。その行動は、何もすることがない暇な状況で特によく起こすようでした。ロッカーに入り込むと、何かブツブツ言っていたり鼻歌を歌っていることが多いのです。

そこでまず取り組んだことは、これまで好き勝手に入り込める状況だったのを、

① **「きゅうけい」カードを担任に渡さないと入れないルールを徹底**（カードを渡せば入ることを許可される）

次にこのルールが定着したことを見定めてから、

② **一日に使えるカードの枚数を徐々に減らしていった。**

最初は10枚使えたのを、**2週間かけて5枚にまで減らしていった。**

それに伴い順調にその制限枚数に収まるように入り込む回数と総時間数が減っていきました。

さらに暇な時間をできるだけ減らすために、

③ **iPadでYouTubeの動画を見ることに誘導**

B君は昔懐かしい「東京フレンドパーク」を見ることがお気に入りなのですが、

iPadを手の届かない棚の中にしまっておく

とそこを指差して、「フレンドパーク！」と一語文で要求するようになりました。

そこでさらに欲張って、

「フレンドパーク、見せてください」という二語文で言うように教えていった

ところ、それも定着しました。

そうこうしているうちに、今ではロッカーに入り込むことは全くなくなりました。

行動問題を防ぐ②ー2

防ぐための5つのサイクル



行動問題を起こさなくても済む基礎力を身につける

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

- ① **不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」**
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② **望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」**
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ **獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」**
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ **獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」**
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ **獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」**
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

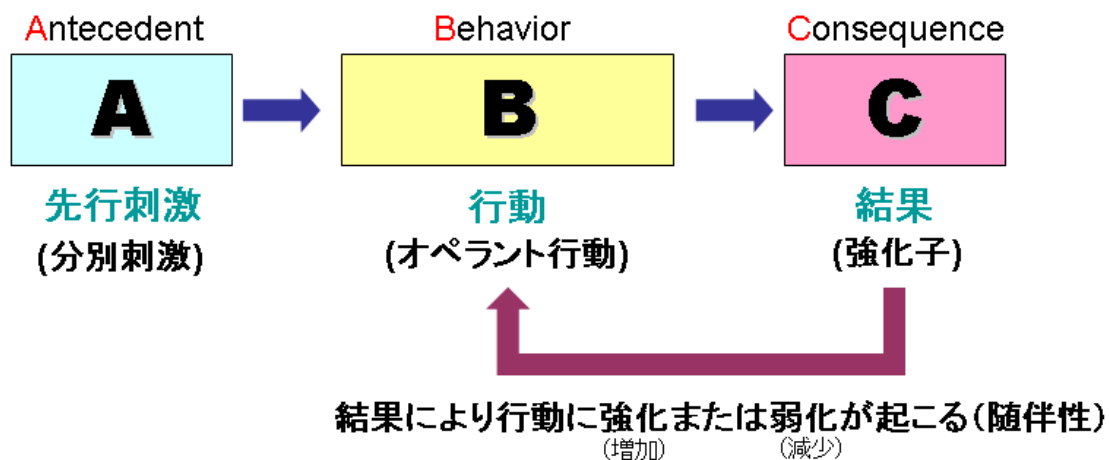
- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

① 不適切行動を減らす

【不適切行動を減少させる方法】

不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

三項随伴性(ABC分析)



方法① 嫌悪刺激の呈示

方法② 消去手続き

方法③ 刺激の撤去

方法④ 分化強化手続き

【不適切行動が強化されている状態を断ち切る】

① 不適切行動を減らす

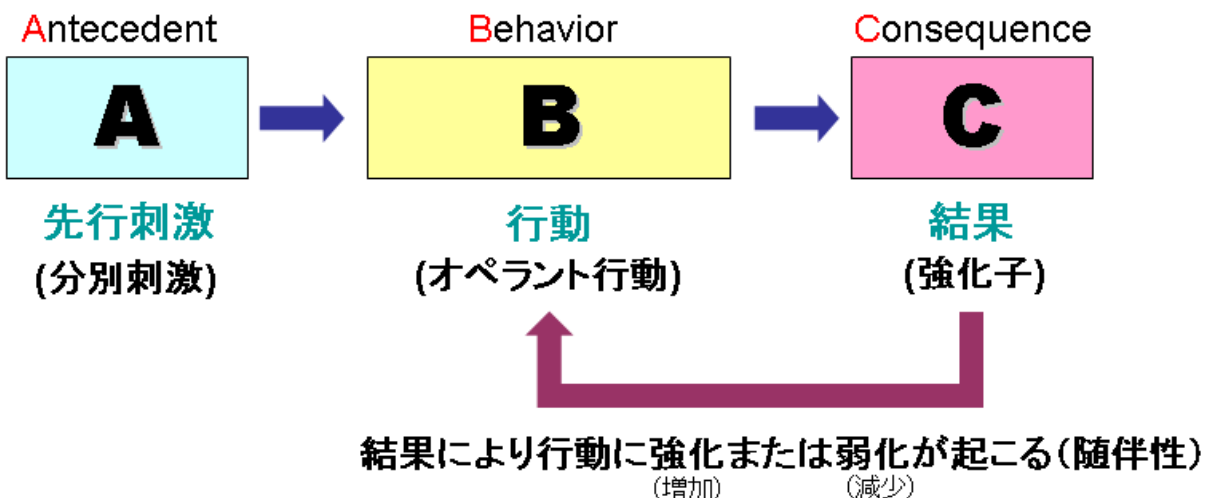
【問題行動を減少させる方法】

方法① 嫌悪刺激の呈示

無条件性嫌悪刺激：肉体的な苦痛や不安感
を与えるもの

条件性嫌悪刺激：経験を通して嫌悪感を
与えるようになったもの

三項随伴性(ABC分析)



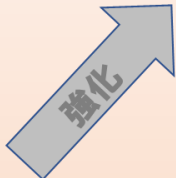

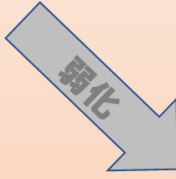

※ 他の方法がうまくいかないときの
最後の手段
直接「虐待」につながりかねない

対人職を専門とする支援者
として使用したくない方法

① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法② タイムアウト（＝罰）

	出現	消失
好子		
嫌子		

好子・強化子を取り去ることで強化を断ち切る

タイムアウト：強化されている機会を一定期間与えなくすること

- ・ 非隔離タイムアウト その場所で行う
- ・ 排除タイムアウト その活動や環境から切り離す
- ・ 隔離タイムアウト 別室に移動させて行う

- ・ 短く
- ・ 終われば元に

本人、保護者、関係者などの承諾を得ること

【リミットセッティング（警告）】

指示に対する引き延ばし話逸らし：子どもに行動の限界を設定する

【子どもがブロックを投げ続けている】

「あと5秒数える間に止めなかったら全部片づけてしまうよ」

【何度指示をされても宿題をしようとししない】

「いますぐ宿題を始めないと今晚のゲームは禁止ですよ」

◎：「□□したら、△△できるよ」で誘う

◎：トークン表などで、家庭内のルールを明確にする

【タイムアウト（罰）】

『だめなことをした』『やるべきことをしなかった』ことに対する
自らが招いた結果であるとの認識

- ・とられたくないもの（特権など）を取り去る
- ・罰則時間は短く
- ・タイムアウトを行う場所を決める
- ・トークン表のポイント減点の取り入れ

【段階】

【指示】 → 【再度指示】 → 【警告】 → 【タイムアウト】

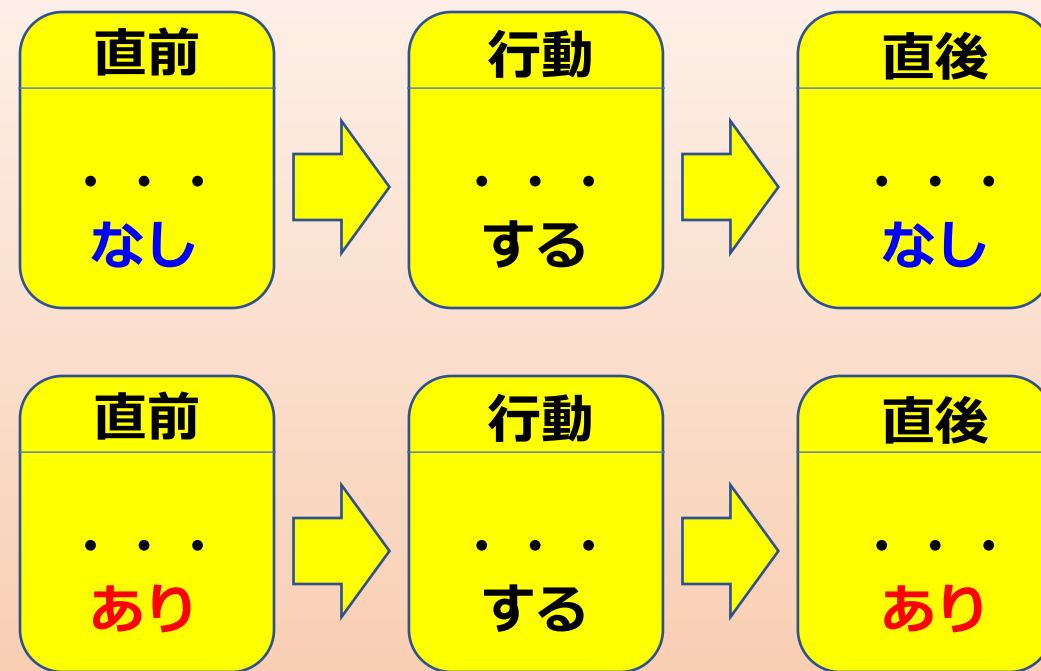
① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法③ 消去手続き

【消去】

これまで**強化されていた行動**に対して
強化の随伴性を中止すると
強化の随伴性を導入する以前の状態まで
その行動は減少する



※ 「計画的無視」
強化も弱化もしない
= なにもしない

① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法③ 消去手続き

【消去の留意点】

「消去バースト」

消去手続きを開始した直後は、一時的に
問題行動の頻度や強度が爆発的に増える



エクスポージャー療法

の原理によると

- ・ 不安は一時的に上昇するものの時間とともに減っていく
- ・ 何度も練習していくうちに不安の大きさは全体的に小さくなる

① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化
ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

ア 低頻度分化強化 ： 不適切行動の回数や時間が基準以下の場合に強化する

問題行動があらかじめ決めた回数や時間の基準値以下で起こった場合に強化をすることで発生頻度を減少させる。

【例】 帰りの会で、他者が話をしているのに自分勝手にしゃべり始める回数が2回以下だった時、会が終わってからごほうびとしてトークンカードに頑張ったシールを渡す。

① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化
ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

イ 他行動分化強化 ： 不適切行動が起きていない場合を強化する

不適切行動が起きていない時間帯やその瞬間があるときに強化をすることで、不適切行動が起きない時間や場面を増やしていくアプローチ。

【例】これから10分間、途中で休まず集中して宿題に取り組むことができた時、宿題全部が終わった後に、好きな職員と好きな遊びを10分間することができる。

① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化
ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

ウ 対立行動分化強化：同時に実行できない代わりの行動を強化

不適切行動と同時に成立しない行動をターゲットにし、その行動がみられたときに強化をする。一方、不適切行動が発生しているときは強化しない。

【例】（離席と着席）頻繁に離席がみられる子どもが、着席をして創作活動に取り組んでいる姿をほめて強化し、離席している場合には強化しない（声掛けをしたり注目したりなどの反応をしない）。

① 不適切行動を減らす

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化
ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

エ 代替行動分化強化：不適切行動に置き換わる代わりの行動を強化

不適切行動に代わる代替行動を強化することで、不適切行動に費やされていた時間の割合よりも代替行動に費やされる時間の割合を高めるというアプローチ。

【例】人の物を無断で借りることがよくある子どもが、「貸して」と頼んで他児から了承を得て物を使うことができた場合のみ強化する。

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

個別支援計画に沿った療育

本人と関係性をつくる

(人は人によって反応が変わる)



具体的なノウハウよりこちらが大切

望ましい行動を身に付けさせる

ひとりの「ひと」として『いとおしむ』

信頼関係づくり

わたしたち支援者の『しごと』 = ほめどころを「みつける」こと
「とりだす」こと

	目的（なにをねらって？）	内容（どんなことを？）	方法・留意点（どうやってほめる？・しかる？）
ほめる	本人の発達・成長のために ①「発達的特質（知徳体）」 ②「個人的特質（性格）」 （自信 チャレンジ心等）	・できたこと ・できるようになったこと ・その子にとって伸びたこと ・チャレンジしたこと ・いつもと違うよい行い	・具体的に（何をほめられているのかが理解できるように） ・普段からの本人の発達・成長の把握（必要に応じて、アンケートや標準検査の活用。特に「変化」を見つけるには、 記録の充実 が重要）
	本人の快感情実感のために （喜ぶ 達成感 元気等）	・本人が喜ぶこと ・本人がうれしいこと	・相手の快感情及び快感情表現の アセスメント （保護者や関係機関からの情報収集＆普段からの観察とスタッフ間での情報の共有 やはりこれも記録が重要）
	本人の承認のために （認める わかってあげる等）	・存在そのものの肯定 ・人格そのものの肯定	・本心でないと見破られる可能性がある （感情も含めた伝えるスキルトレーニングは必須）
	「伝わる」ために・・・		【手 順】 ・まず、注目をさせてから ・相手の目を見て ・照れずに 【スキル】 ・ ノンバーバル の活用（表情、身振り、周りの環境、+ 人に好感を与える身なりや立ち振る舞い ） 【意 識】 ・何を誉められたいのかを把握＆意識をして 【工 夫】 ・支援者の気持ちや考えを付け加えて （他児者の同意見が加わると効果倍増！＝ 心理劇補助自我 ）
しかる	◎ 危険認識 の是正のために	・危険認識に関わる内容	・必要に応じて感情移入が必要（ただし、スタンスとしては 冷静 に） ・なぜ危険なのかの理解と次からの行動修正を具体的にインプットする
	◎ 他者への迷惑 是正のために	・他者への迷惑行為に関わる内容	・何が迷惑になっているのかを相手が理解できるようにしかる （時には、迷惑を受けた相手にその時の感情等を伝えさせることも必要）
	◎ 法律違反 の警告のために	・法律違反の内容	・法律違反の根拠を明確に（「こども六法」という書籍の常備）
	△ 不適切 なことの減少のために	・不適切行動の内容	・目的を決して見失わないこと！（ 感情的になりすぎない ） ・減少の目的のために、「どうすればよいのか」を具体的に理解させる
	「伝わる」ために・・・		【手順】 ・まず、 相手の言い分 を聞くことからスタート 【意識】 ・しかっている 理由 を明確にする ・これから どうするとよいのか を明確にする（一緒に考えるもあり） ・ 短く （3秒～20秒）

※ うまくいかないことや失敗はつきものです！しかし、「意識を意識化」できない人は、素人と呼ばれても仕方ありません・・・

社会的動機付け

- 遊戯動機**…楽しさや面白さを求める。緊張をやわらげ、冗談やゲームを好む。
- 理解動機**…理論的な考えを求めたり、物事の仕組みを理解しようとする。
- 変化動機**…新しいことを好み、流行に敏感で変革を求める。
- 秩序動機**…安定、秩序、伝統、などを大切にする。整理、整頓、正確さを目指す。
- 達成動機**…努力して高い目標をやり遂げる。才能を生かし自尊心を高める。
- 親和動機**…好きな人の近くにいたい、助け合いたいと思う動機。友情を重視する。
- 屈辱動機**…自分を責め、非難や罰を受け入れたいと思う。敗北を認める。
- 攻撃動機**…言葉や力を使って相手を屈服させたい、反対を克服したいと思う。
- 自律動機**…束縛、強制、横暴な権威、因習を嫌い、自由と独立を求める。
- 支配動機**…人の上に立ちたい、説得や命令によって人に影響を与えたいと思う。
- 服従動機**…優れた人の命令に従い、その人の言う通りにしたいと望む。
- 顕示動機**…目立ちたい、人を驚かせたり、楽しませたりして印象づけたいと思う。
- 援助動機**…弱い者、困っている者などを助け、慰め、励ましたいと思う。
- 依存動機**…甘えたい、助けてもらいたい、愛されたい、同情されたいと思う。
- 異性愛動機**…異性を求め、恋愛関係や性的関係に関心を向ける。
- 屈辱回避動機**…失敗して軽蔑されることを避けたいと思う。自己防衛的な思い。

**本人の強み
(ストレングス)**



集団活動をすすめるリーダーの在り方 【資質1】

個を育てるのに役立つ集団をつくる技能が必要

リーダーとして必要な技能 その1 【自己開示能力】

①自分の事実 ②自分の感情 ③自分の思考 をオープンにする勇気

【自己開示能力】が大切な理由

- ・参加者のモデルになる
- ・参加者がリーダーに親近感をもつ

【自己開示能力】を高める方法

- ・多様な見分をする
- ・合理的でない固定観念を修正する
- ・子ども心を出すようにところがける



集団活動をすすめるリーダーの在り方 【資質2】

個を育てるのに役立つ集団をつくる技能が必要

リーダーとして必要な技能 その2 【自己主張能力】

現実原則（本能的ではなく理性に従う）を提示する強さ

【自己主張能力】が**必要な理由**

- ・ 構成的であるため、枠からはずれる参加者に「だめ」と介入が必要
- ・ エクササイズ中に介入が必要な場面がある（心的外傷の防止など）

【自己主張能力】を**高める方法**

- ・ 失愛恐怖（相手を悲しませるだろう）から脱却する
- ・ アグレッシブになること（敵意的ではない攻撃的）
- ・ タイミングや言い方のモデルを見つけて模倣する

